



～地域とともにある学校をめざして～

鯨コミ

R6年度 CS通信No.6 R6.7.19



(コミュニティ・スクール通信) 文責 社会教育推進 DC 藤田昭彦

ふるさと学習発表会(鯨ヶ沢中2年)



7月10日(水)日本海拠点館「冬の広場」において、第2学年ふるさと学習発表会がありました。

テーマは、「北前船の歴史をめぐる旅のプラン作り」で、生徒たちがグループに分かれて、北前船と関わりのある町内の神社、寺等の歴史的建造物や菓子店を調べ、まとめたことを発表しました。

はじめに、校長先生から、コーディネーター、学校支援ボランティア、取材に応じた地域の方々等の協力があって発表会ができるというお話がありました。

各班のテーマは、「北前船から伝わった食べ物と文化」「北前船と神社や寺の関係」「北前船が運んできた歴史」等で、調べたことを基にして、旅のプランを作成し、発表しました。

最後の講評では、教育長から、「現地調査で具体的に知ることができました。各班のプレゼンテーションがうまいです。今日の勉強を生かして今後も頑張ってください。」と、いうお褒めと激励の言葉がありました。

上手にできた白八幡宮大祭学習会(西海小)



7月16日(火)西海小学校全校児童が、日本海拠点館で、白八幡宮大祭学習会を行いました。

はじめに、中田書矢総括学芸員から、

- ・祭りのルーツは、京都の祇園祭で、347年前から続いている祭りであること
 - ・お神輿に神様が乗っていること
- などのお話を聞きました。

このあと田中町町内会の協力により、お囃子と踊りの体験をしました。

「よいはー」の掛け声でお囃子がスタートすると、町内会の方々の方々の叩き方を真似して鉦をたたきました。また、男の子の踊り「チャンチャレンコ」や女の子の踊り「夜かぐら」を体験しました。

田中町町内会の方々からは、「踊りが初めてにしては、上手にできました。」とお褒めの言葉がありました。

来年8年ぶりに行われる白八幡宮大祭本番に向けて、子ども達の知識と興味も深まったのではないのでしょうか。

熱戦続きの校内相撲大会(舞戸小)



7月17日(水)舞戸小学校で、多くの地域の皆さんが見守る中、校内相撲大会が行われました。

この日は、朝7時から体育館で、相撲協会の方々と五所川原農林高校相撲部の方々が全校児童のまわしつけを行いました。一方、相撲場では、PTAの皆さんが、テント張りや会場準備を行うなど、たくさんの地域の方の協力がありました。

どの学年でも、初めから最後までどちらが勝つかわからない熱戦が続き、今年も伝統ある相撲文化が子どもたちに引き継がれました。